

アフリカ連合開発庁（AUDA-NEPAD）と第5改訂業務連携協定（MOC）を締結 －新たに12のテーマで協力開始－

2025年8月26日

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、8月21日、アフリカ連合開発庁（AUDA-NEPAD）と第5改訂業務連携協定（MOC）を締結しました。署名は、第9回アフリカ開発会議 TICAD9 が開催された横浜で、AUDA-NEPAD のナルドス・ベケレ＝トーマス長官と JICA 田中明彦理事長との間で行われました。

今回の業務連携協定（MOC）は、アフリカ全体を対象に、経済統合や産業振興、人材育成、食料・エネルギー・デジタル化といった共通課題に連携して取り組むことで、制度整備や実施体制の強化を図り、アフリカ連合が掲げる長期開発ビジョン「アジェンダ 2063」に基づく持続可能な開発の実現に貢献することを目的としています。



署名式の様子（撮影：滝本哲也）

AUDA-NEPAD と JICA は、2014 年より業務連携協定を締結し、毎年年次協議を実施しています。現在では、地域統合、アフリカ・カイゼン・イニシアティブ（AKI）、食と栄養のアフリカ・イニシアティブ（IFNA）、アフリカ現地企業支援事業（Home-Grown Solutions（HGS）アクセラレーター）、研究協力（Policy Bridge Tank）の5分野に拡大し、AUDA-NEPAD との連携事業が推進されています。

今回の協定では、これまでの5分野に加えて、電力、デジタル化、AfCFTA、ブルーエコノミー、ASEAN 連携、アフリカのきれいな街プラットフォーム（ACCP）の5つのテーマが新たに加われました。なお、既存分野の再編も行われ、「地域統合」は「アフリカ・インフラ開発プログラム（Programme for Infrastructure Development in Africa/PIDA）」と「貿易円滑化（One Stop Border Post/OSBP）」の2つのテーマに分かれ、IFNA はより広義な枠組みである「アフリカ地域全体の目標となる Comprehensive Africa Agriculture Development Programme（CAADP）の実施」へと名称変更されました。

今後は以下の12のテーマで連携します。

- ①アフリカ・インフラ開発プログラム
- ②貿易円滑化
- ③電力
- ④デジタル化
- ⑤アフリカ・カイゼン・イニシアティブ(AKI)
- ⑥AfCFTA
- ⑦CAADP の実施
- ⑧ブルーエコノミー
- ⑨HGS アクセラレーター
- ⑩研究協力
- ⑪ASEAN 連携
- ⑫ACCP

JICA は、今回の業務連携協定を通じて、アフリカ連合が掲げる長期開発ビジョン「アジェンダ 2063」の実現に向け、インフラ整備や産業振興、デジタル化、農業開発など多分野での協力を通じて、AUDA-NEPAD とのパートナーシップをさらに強化してまいります。

【SDGs 達成への貢献】

ゴール2（飢餓をゼロに）

ゴール9（産業と技術革新の基礎をつくろう）

ゴール17（パートナーシップで目標を達成しよう）

【関連リンク】

[田中理事長がアフリカ連合開発庁（AUDA-NEPAD）のベケレ=トーマス長官と会談
| ニュース・広報 - JICA](#)